

## 駿河湾の深海魚 (14)

### ブタハダカ (その1)

久保田 正 ・ 佐藤 武

ブタハダカ (*Centrobrnchus brevirostris*) は、ハダカイワシ目、ハダカイワシ科、ブタハダカ属の1種です。日本近海では東北沖から琉球諸島域にかけて報告され、北太平洋の温帯域の広い海域に分布する中深層性種です。夜間には海面付近まで上昇する海面上昇群に含まれます。体長約40mmまで成長し、本科魚類のなかでは小型種です(図1)。昼間は水深200~400m位に生息し、夜間には餌を求めて0~1mまで上昇し、明け方には再び深い層に戻るといった日周鉛直移動を繰り返しています。同じように夜間海面に上昇する種類としては、本誌第35号8頁で述べたススキハダカ、アラハダカ、トゲハダカ、マガリハダカなどを挙げることができます。夜間に稚魚採集用のプランクトンネットを用いて海面を水平に曳くと、普段眼にしないこれらの深海魚を採集することができます。

日本近海に生息するブタハダカ属には本種の他にマルハナハダカ (*C. andreae*) とナガハナハダカ (*C. chaerocephalus*) の計3種が知られています。どの種も体側にある発光器の数や配列の違いがある他に、本種とマルハナハダカの2種は吻端にある臭葉(ロゼット)の形は丸型で、ナガハナハダカのそれは長円型であるなど形態的な違いがあります。

また、本種の尾柄の上部と下部にそれぞれ発光腺があります。体側の発光器とは構造が違って海面上昇群の種に共通して見られるもので、上部にあるのが雄、下部にあるのが雌です。これは二次性徴で、ある大きさになると現れて(発現)成長とともに完成します(図2)。その形状や細片(パッチ)数は、種類毎に独特ですが、同種内ではほぼ一定です。また、これ



図1. ブタハダカ  
体長30mm、雄、1975年3月本州南方海域で採集(撮影:伊東 宏)

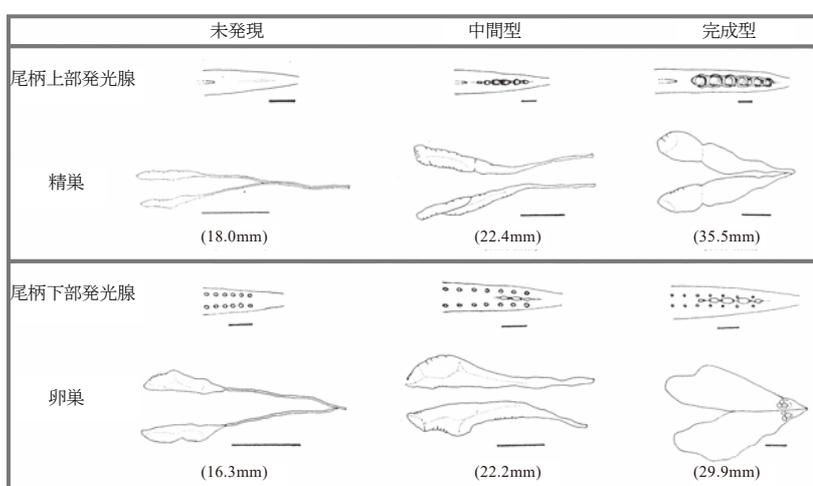


図2. 尾柄上部発光腺と精巢(上)および尾柄下部発光腺と卵巣(下)の発達過程  
各々の図中スケールは1mm、( )内の数字は体長を示す

らと同時に生殖腺も平行して発達します。発光腺が現れていない個体の雌雄は、腹部を開いて生殖腺を確認しないと判りません。

雄の上部発光腺の完成後の円形の細片は一列に並び、その数は5~7個(主に6個)です。体長15~18mmで現れ、20~25mmで完成します。一方、雌の下部発光腺の完成後の楕円形で小型の細片数は3~5個(主に4個)で雄よりも少なく、それぞれがわずかに離れています。体長15~20mmで現れ、23~27mmで完成します。雌雄ともにこの発光腺の発現さらに完成までの体長にはかなりの個体差があります。図2は、雌雄別に発光腺の発達過程を3段階に分け、それに生殖腺(雄は精巢、雌は卵巣)も対比させて示しています。ちなみに成熟卵の直径は約0.33mmです。